

第 65 回 理 事 会 議 事 録

1. 日 時 令和 2 年 11 月 4 日 (水) 13 時 00 分～15 時 05 分
2. 場 所 Web 会議 (ZOOM システム) 日本私立薬科大学協会事務局
3. 出 席 者 会 長 井上 圭三
副 会 長 後藤 直正 楠 文代
常務理事 中村 明弘 灘井 雅行
浜岡 純治 加留部 善晴
理 事 亀井 美和子 元木 和幸
田中 芳夫 堅田 利明
越前 宏俊 津田 裕子
宮田 興子
監 事 富田 基郎 市川 厚
参 与 乾 賢一 本間 浩

4. 議事の経過の要領及びその結果

定款の規定に基づき井上会長が議長に就任し、本日の出席理事が 14 名であり、定款に定める定足数を満たしており、本理事会が有効に成立していることが宣言された。

また、議事録署名人として出席理事から、越前理事を指名し、事務報告の後、直ちに議案の審議に入った。

(1) 前回議事録の確認について

前回議事録 (第 64 回理事会 : 令和 2 年 9 月 29 日開催) について、全会一致でこれを承認した。

(2) 役員 (理事) の補充人事について

井上会長から、前回理事会において令和 2 年 6 月 30 日付で辞任した伊藤智夫理事 (北里大学学長退任) の後任について、高柳元明 東北医科薬科大学理事長・学長を理事候補者とすることが承認されたが、本人から諸事情により理事就任を辞退したい旨の申し出があったことが報告された。このため資料 3 のとおり、その後任については令和 2 年度の理事選挙結果に基づき、佐川賢一 明治薬科大学理事長を理事候補

者とすることが提案され、協議の結果これを承認し、11月24日（火）開催の第2回通常総会に諮ることとした。

なお、令和2年度の理事選挙実施に際し、すべての大学の議決権を有する者が理事候補者となる内規の改訂を行ったが、その実施方法等については、次回理事選挙に向けて再度検討することとなった。

（3）令和3年度事業計画（案）について

小池事務局長から、資料4に基づき「令和3年度事業計画（案）」について説明があり、協議の結果全会一致でこれを承認し、11月24日開催の第2回通常総会に諮ることとした。

（4）令和3年度収支予算（案）について

小池事務局長から、資料5に基づき「令和3年度収支予算（案）」について説明があり、協議の結果全会一致でこれを承認し、11月24日開催の第2回通常総会に諮ることとした。

なお、井上会長から、財政状況に多少の余裕があることから、新規に計画する事業等があれば、提案願いたい旨の発言があった。

（5）令和2年度教育賞受賞者の選考について

井上会長（教育賞受賞者選考委員会委員長）から、資料6に基づき、本年度候補者2名（特定の事業に功績のあった者として「共用試験検討委員会委員長」からの推薦）について報告があり、それぞれの候補者の略歴、功績等について説明があった。

次いで、本日午前中に開催した同選考委員会について、推薦があった2名は、広く薬学教育の発展に寄与するとともに、薬学教育に関する普及・啓発活動等に顕著な業績が見られることから、本選考委員会として教育賞受賞候補者に推薦することした旨の説明があり、本理事会で協議の結果、これを承認し、11月24日開催の第2回通常総会に報告することとなった。

（共用試験検討委員会からの推薦）

増野 匡彦（慶應義塾大学薬学部 教授）

前田 定秋（摂南大学薬学部 教授・副学長）

（6）学生入学定員の遵守について

井上会長から、資料7に基づき私立薬科大学（薬学部）の入学定員遵守について説明があり、「来年度入学者についても、入学定員と入

学者数が等しくなるよう厳正な定員管理を徹底する。」ことを理事会は承認し、11月24日開催の第2回通常総会に諮ることが提案され、これを了承した。

(7) 薬学教育協議会について

本間参与(薬学教育協議会代表理事)から、資料8に基づき以下の報告があった。

- ①令和2年度版薬学教員名簿を刊行し、関係機関へ送付した。
- ②実務実習指導薬剤師認定のためのワークショップについて
 - ・感染症対策下でのワークショップを関東地区、中四国地区で実施
 - ・オンラインワークショップが実施できることを確認
- ③実務実習指導薬剤師認定のための講習会について
 - ・新規認定及び更新認定に必要な講習会を改訂
 - ・主催者(地区調整機構、地区薬剤師会等)が薬剤師研修センターに開催を申請し、認可している現状を薬学教育協議会が主催者となり、認可する形態に変更する。
- ④令和3年度薬学実務実習の広報用ポスターを日本病院薬剤師会との協力で作成中である。
- ⑤実務実習指導薬剤師講習会、研修会等の審査、認定等に関する業務を薬剤師研修センターから薬学教育協議会に移管する方向で現在、話し合いを進めている。

なお、本間参与から広報用ポスターの作成に関連して、本協会に対し後援名義の依頼があり、これを承認した。

(8) 薬学共用試験について

中村常務理事(薬学共用試験センター試験統括委員会委員長)から資料9に基づき、2020年度薬学共用試験 CBT 体験受験の試験結果及び「新型コロナウイルス感染症に伴う特別試験の実施」について検討を行い、全国薬科大学長・薬学部長会議第2回総会に提案することとしている旨併せて報告があった。

(9) その他

(1) 文部科学省委託費「6年制薬学教育制度調査検討委員会」の検討状況について

井上会長から、本検討委員会における取り組むべき課題は、①6年制薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に向けた調査・研究②薬学研究科4年制大学院の在り方に関する調査・研究であり、検討課題等について以下のとおり発言があった。

- ① 医師など多職種の教育では「プロフェッショナリズム」の重要性を教えているが、薬学部では聞く機会は多くない。現場で薬剤師が活躍する姿を見ることで初めて学生がプロフェッショナリズムを感じるものとする。次期改訂コアカリでは、プロフェッショナリズムへの言及は避けられない。どのように教育するか実務実習のあり方も含め熟慮する必要がある。
- ② 今までの薬学には、公衆衛生学的な視点が欠けていた。具体的に何をすべきか難しいが、公衆衛生学的視点をもう少しコアカリに入れる必要がある。
- ③ 薬剤師としての現場感覚を持つ教員が少ないことが臨床教育を展開する上で最大の問題である。そのため可能な限り教員が薬局・病院で業務経験を積む等、現場との一層の連携が必要である。
- ④ 「薬剤師として求められる基本的資質」を掲げ、身につけるためのGIOを達成するためにSB0を示しているが、SB0が1,000項目と非常に多く、細かい。一つひとつこなすだけでも大変で個々の大学が個性を発揮する余裕はない。スリム化は簡単ではないが各大学の自由度を加味し、もっとシンプルにまとめるべきである。
- ⑤ 充実した薬物治療を実践する能力等は卒前では十分身につかず、卒後の研修、生涯にわたる研鑽で高みに達する。卒後以降を見据えてコアカリを考える必要があり、学部教育と卒後研修の切れ目のない連携が重要である。

次いで、現状及び課題等について種々意見交換を行った。

(2) PCR検査に関する新しい取り組み状況について

新型コロナウイルス感染に関する各大学のPCR検査に対する取り組み状況について、4大学（昭和大学、東京薬科大学、武庫川女子大学、長崎国際大学）の資料配布があった。

議長は、以上をもって議案の全部の審議を終了した旨を述べ、15時05分閉会を宣言した。

以上の議決を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び出席理事(指名された議事録署名人)、監事がこれに署名捺印する。

令和 2 年 11 月 18 日

一般社団法人 日本私立薬科大学協会

議長 井上圭三
(押印済)

出席理事 越前宏俊
(議事録署名人) (押印済)

出席監事 富田基郎
(押印済)

出席監事 市川厚
(押印済)